

## 第400回番組審議会

1. 日時 平成17年6月14日(火) 午後1時30分～

2. 開催場所 テレビ岩手 6階大会議室

3. 委員総数 13名

出席委員 11名

出席委員	委員長	藤元 隆一
	副委員長	澤田 博司
	委員	堀内 三郎
	委員	山本 玲子
	委員	和田 利彦
	委員	高橋 三男
	委員	岡田 知嗣
	委員	帷子 利明
	委員	千葉 則茂
	委員	西郷 喜代子
	委員	橋田 純一

欠席委員	委員	梅村 俊男
	委員	久郷 和美

社側出席者 中野 士朗 (代表取締役社長)  
横山 尹浩 (専務取締役) 報道・制作・技術・  
広報・番組審議会担当  
阿部 孝夫 (常務取締役事業局長) 事業担当  
村田 憲正 (役員待遇報道局長)  
及川 昇 (営業局長)  
鈴木 直志 (報道局専任局長)  
野田喜代志 (制作局次長)

事務局 青山 尚之 (編成局長) 番組審議会事務局長  
八重樫雅弘 (編成局編成部主任)

#### 4. 議 題

##### 1. 「いわて情報ステーション」

毎週日曜日 午前7時45分～午前8時 放送

午後5時15分～午後5時30分 再放送

平成17年4月24日分

「子どもは次世代のパワー」

平成17年5月15日分

「一人ひとりが主役の県土づくり」

##### 2. その他ご覧になった番組についてのご意見

#### 5. 議事の概要

県の広報番組である「いわて情報ステーション」の中で、4月24日分の「子どもは次世代のパワー」と5月15日分の「一人ひとりが主役の県土づくり」について審議した。委員からは、「各地域の様々な取組をしている事が感じられ、県の取組がよく分かった」とする意見が出された一方、「県政番組は、今やっている、やろうとしている制作を中心に上げがちである。これからは制作の検証・評価を取り上げて欲しい。」とする意見が出された。

#### 6. 審議内容

別紙のとおり

#### 7. 審議機関の答申又は改善意見に対してとった措置及びその年月日

特記事項はないが、キー局及び関係局、関連部署に議事録を配布するなど、関係者に審議の内容を伝えた。

#### 8. 審議機関の答申又は意見の概要を公表した場合における

その公表の内容、方法及び年月日

- ・ 自社制作番組「あなたと歩むテレビ岩手」

(平成17年6月21日(火)午前11時50分～11時57分放送)で、審議の概要を放送。

- ・ 支社・支局に議事録を設置
- ・ 当社のインターネットのホームページで議事録を公開。

#### 9. その他の参考資料

資料として以下のものを配布

- ・ 視聴者からのご意見

## 議事の内容

事務局 定刻になりましたので審議会を始めます。きょうは、中野社長より皆様に御報告がございます。

社側 テレビ岩手は来週株主総会がございます。平成17年度の決算は増収減益という結果になりました。視聴率はゴールデンタイムがトップという結果です。また、役員改選期でございます。これまで番組審議会を担当していました横山が退任し、変わりました松本が副社長として、石井が専務としてまいります。次回には皆様にご挨拶を考えております。以上御報告いたします。

社側 来週をもって退任することになりました。先生方にはこれまで大変お世話になりました。心から感謝しております。今後もわが社を宜しくお願いしたいと思います。長い間ありがとうございました。

事務局 本日の議題は、県の広報番組で毎週日曜日午前7時45分から放送しています「いわて情報ステーション」になっております。委員の皆様には、4月24日分の「子どもは次世代のパワー」と5月15日分の「一人ひとりが主役の県土づくり」の二話を事前にVTRテープをお送りしています。それでは、委員長、宜しくお願いします。

委員長 今日の議題は県の広報番組である「いわて情報ステーション」です。それでは宜しくお願いします。

委員 「子どもは次世代のパワー」は県の取組、現状が分かり易く、県の教育行政がよく分かりました。構成がよく出来ていると思います。  
「一人ひとりが主役の県土づくり」は「子どもは次世代のパワー」に比べて分かりにくかったと思います。推測すれば、まだ取組が始まったばかりのものを紹介しなければならなかった辛さがあるのだと思いました。

委員 「子どもは次世代のパワー」は子を持つ親御さんにとって県の取組を理解してもらえたと思います。ただ、「学習定着度状況調査」いわゆる「学力テスト」が視聴している方に理解いただいたの分かりません。親御さんにとって自分の子供がどのようなランクにあるか関心が強く、その結果を詳しく知りたいと思っています。番組制作にあたり、現実の要望と建前の所で悩むのではないかと感じます。全体的に、番組内で情報は伝えているけれど、制作を依頼している側の狙いが作り手にはっきりと伝えられてうるのが、と感じました。

「一人ひとりが主役の県土づくり」は公共事業のあり方の問題で「道路」「公園」造りのスタイルが変わってきている、という事だと思います。そういう考えが番組の中に出ているかがポイントだと思います。商店街の方々が自分の商売の問題から熱心に取組んでいます。ここで問題となるのは量販店・郊外店の存在があ

ります。しかし、県が相談を受け、そこに専門家が入り商店街の使い勝手の良さを作ろうとする考えは分かりました。

委員 「子どもは次世代のパワー」は岩手県が英語数学で最下位である事や、大学進学率が全国で45位であるなど愕然としましたが、番組は、一つ一つの場面が短く少し興味を引くとすぐ他の場面に移ってしまうことの繰り返しで見ているほうは辛かったです。学力低下に伴う啓蒙活動としては意義があると思いました。二つの話題ともに15分という短い時間であり、その中でさまざまな事を伝え提案していく事は大変だと感じました。

委員 心に残る部分がありすぎた事が残念です。話す内容も台詞を読んでいるように感じました。「子どもは次世代のパワー」では、子供や先生が取材になれていない内に取材が終わってしまったと感じました。進学率の問題も本当に学力だけの問題なのかどうか議論も必要だと思いました。「一人ひとりが主役の県土づくり」の方も新しい問題ではなく、実際にはNPOも数多く来ています。もう少しインパクトある作り方をしたほうが良いと思いました。

委員 一言で言うと、可もなく不可もなく、という事です。「子どもは次世代のパワー」は訴える側と視聴者のギャップを感じました。生きた教育と大学進学率がどう結びつくのか理解できませんでした。教育委員会の方々の発言も抑揚がなく聞きずらかったです。「一人ひとりが主役の県土づくり」は全体として未完成なものを題材として選んだのではないかと感じました。暮らしの道ゾーンについても説明を聞いていると完成形に近づいているのかと、計画が17年度で完了が19年度という事で拍子抜けしました。県の広報番組はどうテーマをきめて、どのくらい県が企画に参画しているのか教えていただきたいと思います。

委員 気づいた点を述べさせていただきます。字幕スーパーが司会の方々の性別で色を変えている点などは工夫を感じました。しかし、司会の方々がテレビ岩手さんの中庭から出演していますが、取材の現場から伝えたほうが臨場感があると思います。また、商店街を案内する方が出演していますが、カメラのアングルがあまり変わっていないので少し工夫が必要だと思います。学力低下の部分で出ていた、岩手・和歌山・福岡・宮城のこの括りはどういう括りであるか教えて欲しいと思います。

委員 県の広報番組という事ですが、薦・古館両アナウンサーがわかり易く伝えていたと感じました。しかし、教育委員会の方々の説明はまるで議会答弁のようで一般県民を意識しない、非常に不親切なものであると感じました。

委員 各地域の様々な取組をしている事が感じられ、私が知らない取組がされていると感じました。英語教育も以前のようなものとは変わっていて、今の授業の一旦を感じました。あえて気になった事を言うと、やはり県教育委員会の方々の場面です。ご本人が自分の言葉で話していないと感じられてしまいました。

委員 今回の二つの番組はみなさんと同じ感想を持ちました。その点については私はあえて触れませんが、私はこの「岩手情報ステーション」を楽しみに毎回視聴しています。放送時間も見やすい時間であると思います。この番組のスタッフは若い

方々が制作していると感じます。色々なところで若さを感じますし、良い番組であると感じています。県政番組は、今やっている、やろうとしている制作を中心に取り上げがちですが、これからは制作の検証・評価を取り上げていただきたいと思います。

委員 番組の性質上、興味をかきたてられる番組ではありませんでした。やはり私も教育委員会や振興局の方々の出演部分は違和感をもちました。例えば、古館アナが補足して説明する事が必要だと思います。

委員 県の広報番組はなかなか難しい点があるとおもいます。県の政策をどのように番組化していくか制作者の方も苦心している点かなと思いました。県の方々が出演するのも当然ですが、どのように出演して頂くかも問題だと思いました。また、どのようにテーマを決めるのかという事もあると思います。会社側からお聞きしたいと思います。

社側 字幕スーパーについては、以前は手話などもやっていましたが、県の方からスーパーをすべて出すよう要望があり現在の形になっています。また、県の方々が出演している部分でご指摘があった部分ですが、やはり曖昧でなくきちんとした説明をしなければならないという理由から、あのような形になったのだと思います。テーマについては、県の広報公聴課さんが中心になり各部局からテーマが上がってきます。それから私たちが入って詰まっていくという形になります。テーマについて番組を作る際、あまりきれいに作りすぎてしまい、視聴者の知りたい事とずれてしまう事が出ないよう注意していきたいと思います。若い制作担当者が5年ぐらい担当して、頑張って制作しており、ご指摘の点はとてもありがたいと思います。これからも宜しくお願いします。

委員 岩手日報の夕刊に県政テレビの案内でこの番組のお知らせが出ていますが、これはどのような手段で掲載されているのですか。

社側 毎週金曜日の夕刊に掲載いただいています。定例的なものです。

委員 「5きげんテレビ」のクイズのコーナーである村の方が出演されるようになっていきます。以前、日本テレビ制作の「笑ってコラえて」に出演されている事も見ました。独特の方言で話しをされていますが、地元の人から見れば違和感のある方言であり、男言葉であるような感じをもちました。視聴者の立場から見ても、違和感をもってしまいます。出演をお願いされるにしても、話し方などをアドバイスされたいかがかだと思います。

社側 まさにご指摘の通りであると思います。番組の担当者から話を聞き、考えたいと思います。

委員 貴重な意見だと思います。他に何かありますかでしょうか。では、事務局にお返しします。

事務局 以上で番組審議会を終了いたします。

